

佐賀県には、書、絵画、染色など、さまざまな分野の芸術品が残されています。素晴らしい作品に触れ、作者の想いや表現方法を感じてみましょう。

なかばやし こ ちく そえ じま たね おみ  
□明治の二大書家・中林梧竹と副島種臣



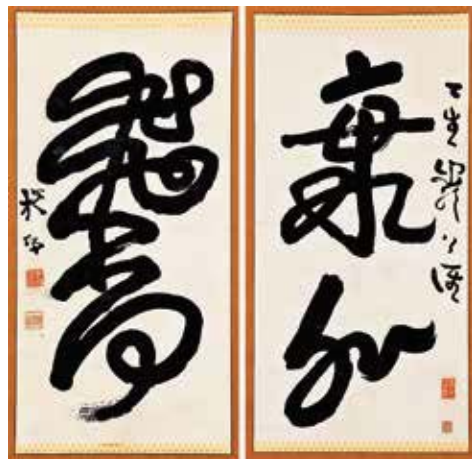
(小城市立中林梧竹記念館 提供)

**中林梧竹**  
(現在の小城市出身)

1827(文政10)年～  
1913(大正2)年

かいがい ひ こう  
**海外飛香**

82歳のときの作品。「海」の字の「水」を「水」で表しています。



(小城市立中林梧竹記念館 蔵)



(小城市立中林梧竹記念館 蔵)

ちんこくの やまどう ひ たくほん  
**鎮國之山銅碑拓本**

梧竹は72歳のとき、富士山の山頂に「鎮國之山」の銅碑を建立。その文字を紙に写しとった銅碑の拓本です。

ポイント  
梧竹は、「毎日バケツ一杯の墨がなくなるまで書いた」というエピソードが残るほど練習に励みました。



**天山にある鎮國之山銅碑**

富士山にある「鎮國之山」の銅碑と同じものが天山8合目にもあります。

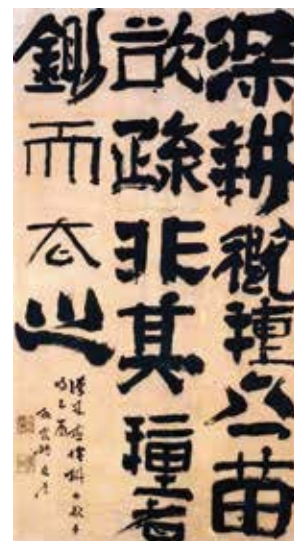
(小城市教育委員会 提供)



(佐賀県立佐賀城本丸歴史館 提供)

**副島種臣**  
(現在の佐賀市出身)

1828(文政11)年～  
1905(明治38)年  
号(書の制作で用いる名前)は「蒼海」または「一々学人」など。



ポイント  
一画一画に心をこめた、力強い筆跡と自由な発想の書体が魅力です。

こうでん か  
**耕田歌**

力いっぱい書き始めるのが種臣流で、2行目末は文字が入りきれず、極端に小さく書かれています。

(佐賀県立美術館 蔵)



(佐賀県立美術館 蔵)

きうん ひう  
**帰雲飛雨** 龍をイメージさせる、グルグルと巻いた独特の書体。

**親交があった  
梧竹と種臣**

歳が近かった二人は、互いに尊敬し合い、親交もありました。

高伝寺(佐賀市)にある種臣の墓標は、梧竹が書きました。



**見どころスポット**

**小城市立中林梧竹記念館**

住所：小城市小城町158-4  
電話：0952-71-1132  
開館時間：9時～17時  
休館：毎週月曜日・祝日・年末年始  
料金：200円  
(大学生以下無料)



## □外国で最初に西洋画を学んだ百武兼行



(佐賀県立佐賀城本丸歴史館 提供)

### 百武兼行 (現在の佐賀市出身)

1842(天保13)年～  
1884(明治17)年

もと11代藩主鍋島直大のお供として、3度もヨーロッパに行ったことで、西洋画を学ぶことができました。



### 鍋島直大像

直大がイタリア公使として赴任した際、随行した兼行がイタリア滞在中に描いた作品。

(公益財団法人 鍋島報効会 蔵)

## □色彩の画家・岡田三郎助



(佐賀県立美術館 蔵)

### 岡田三郎助 (現在の佐賀市出身)

1869(明治2)年～  
1939(昭和14)年

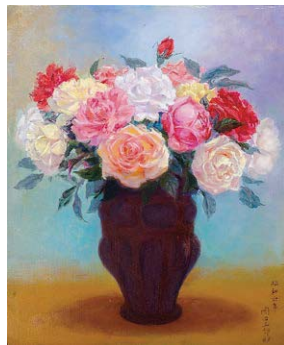
岡田三郎助は、幼い頃に見た百武兼行の絵に影響を受けて、西洋画の道に進みました。



(佐賀県立美術館 蔵)

### 少女読書

1924(大正13)年の作品。当時としてはおしゃれな髪型と洋服で、今でいう雑誌のグラビアページのような美人画。



(佐賀県立美術館 蔵)

### 薔薇

1931(昭和6)年の作品。大正末から昭和にかけて、岡田はバラの絵をたくさん描きました。



## 見どころスポット

### 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

#### 岡田三郎助の常設展示「OKADA-ROOM」

岡田三郎助のアトリエ  
(東京・渋谷に残されていた岡田三郎助のアトリエを佐賀に移築し、平成30年4月1日から公開)

電話:0952-24-3947  
開館時間:9時30分～18時  
休館:月曜日

#### 岡田三郎助アトリエ



## □重要無形文化財保持者(通称「人間国宝」)の 鈴木滋人さん

### 木版摺更紗とは？

木版と型紙を組み合わせた染色の技法。江戸時代、佐賀藩の献上品・贈答品として幕府や大名に贈られた「鍋島更紗」の技法をもとにしています。



### 染織作家 鈴木滋人さん (鹿島市)

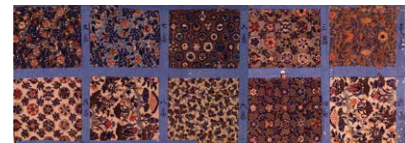
一度途絶えた、鍋島更紗の復元に取り組んだ父・照次さんの後を継いで、木版摺更紗の研究と作品づくりに力を注いでいます。2008年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

漿果とは果実類のことで、作品はヨウシュヤマゴボウをモチーフにしています



(鈴木滋人氏 提供)

### 木版摺更紗着物「漿果文」



(佐賀県立美術館 蔵)

### 鍋島更紗見本帖「さらさ屋兵右衛門」 (佐賀県重要文化財)

江戸時代は、この見本帖から好みの模様を選んでもらっていました。

## 制作の工程

### 模様を彫った木版

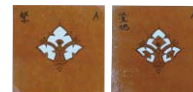
※着物1枚分で、少なくとも2000回以上は木版を押します



●布に木版を押して、黒い線の模様をつけます。



●何枚もの型紙を使って、刷毛で色を摺り込んでいきます。



■使う色ごとに切り抜いた型紙

●最後にまた木版(上型)を押して、赤い線やうす墨などでアクセントをつける場合もあります。



### 鈴木さんが作品づくりで大切にしていることは？

生き生きとした表現を大切にしたいので、モチーフにしたい植物などの自然をよく観察してスケッチをします。その時の感動や発見をデザインに生かしています。

## 見どころスポット

### せんしよく 染織資料館

住所:鹿島市山浦甲1524  
電話:0954-63-4085  
開館時間:8時～17時  
休館:土・日・祝日  
※来館前に電話連絡をお願いします

